

子供たちの 笑顔のために



岡崎市学校薬剤師会 会長
守谷みのり 氏

私が学校薬剤師となり二十七年が過ぎます。大学を卒業し病院薬剤師として勤務して二年経ったころ父が病気で他界し、実家の薬局を継ぎ、私の学校薬剤師の活動が始まりました。最初はどのようにして薬剤師が学校の環境衛生検査をするのか、と疑問に思いつつ、環境衛生検査を行うため担当校に通っておりまして。そのころまだ独身で、あまり子供に興味がありませんでしたが、学校に行くと、子供たちの元気な挨拶、明るい笑顔で迎えてもらえるのがとても楽しくなりました。そして校内を検査しているときと興味津々な顔で覗き込んで、ちよつと照れながら話しかけてくる子もいます。年を重ねてくるごとに学校薬剤師の役割、学校環境衛生検査の必要性も理解できるようになりました。

二十七年も経つと時代の移り変わりとともにいろいろなことが変わってきました。まず学校薬剤師活動では当初は環境衛生についての検査が主体で保健室の医薬品の管理、そして



糞虫卵検査、尿検査・検便も学校薬剤師が行っていました。家庭生活等を取り巻く社会の環境衛生が改善されたことで糞虫卵の検査は廃止された半面、環境整備が進み生活環境等の衛生面が良くなり、食生活も向上したことにより、アレルギー疾病のある子供たちが多くなりました。最近では学校でアナフィラキシーショックを起こした場合のエピペンの使用等も大きな変化ではないでしょうか。また地球温暖化・エアコン等の普及により夏季の熱中症対策・ノロウイルス・O-157等の感染症にも注意が必要になってきています。そして医薬品の適正使用や薬物乱用防止活動等学校薬剤師としての活動

も多くなってきました。それと同じく子供たちにも大きな変化が見られます。平均身長は高くなり、成長の度合いも早くなったように思われます。遊びに関してもゲーム機の普及により屋内で遊ぶことが多くなり、また心の病のある子も増えています。教育現場においても、ゆとり教育、パソコンの授業等大きく変化しました。このような時代の流れにあわせ、毎日の生活の半分を過ごす学校生活を子供たちが健康で安全に過ごせるよう、そして元気な挨拶と明るい笑顔のために学校薬剤師として努めていきたいと思っております。

(もりやみのり)

教育随想



平成 30 年 2 月 1 日

2 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
岡崎市学校薬剤師会 会長
守谷みのり 氏
- この人に聞く…………… 2
ササユリ愛護の会 会長
永井 錦治 氏
- 羅針盤…………… 2
竜海中学校長 加藤 勝巳
- ふれあい…………… 3
連尺小学校 都築 周平
- 特集…………… 4
歴史発見
滝山寺・滝山東照宮の
国指定重要文化財
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
防災訓練 (昭和 48 年)
- この本を…………… 8



ササユリ活動の 後継者を育てる

ササユリ愛護の会 会長

永井 錦治 氏

ササユリは、笹ささによく似た葉を持ち、優美な植物である。

「昔は、田んぼ作りをする人がたくさんいて、日光を当てるため、木を切ったり、草を刈ったりしていました。そんな田んぼの畔あぜにササユリは、たくさん咲いていました。」

新香山中学校では、香山中時代の昭和四十一年から、多くの人の心を和ませようとササユリの花束を老人介護施設などに届ける「ササユリ訪問」を行ってきた。

「ところが、田んぼを作る人が減少するなどの影響で、ササユリ訪問に

持つていくササユリが減ってきました。そこで、ササユリを自分の山で保護し、中学校へ寄付しました。」

永井氏は、ササユリがたくさん咲いていた風景を取り戻したいと願い、地域のひとと協力して、昭和五十三年「ササユリ愛護の会」を結成した。しかし、ササユリの保護活動は試行錯誤の連続だった。

それでも永井氏は、学校との連携を図り、ササユリ保護活動を続けた。「初めはササユリを栽培する方法を模索しました。ササユリの球根は、人が素手で触ると腐ってしまいます。手袋をはめ鱗片りんぺんをとり、そこから育てました。中学校と協力し、学校にハウスを作り、そこで栽培を行いました。当時の先生と協力して生徒に栽培の方法を伝えていましたが、今はもう方法を知る先生がいなくなりました。」

時が経つにつれ、地域にもササユリの知識を持つ人が少なくなり、五か所あったササユリ愛護の会支部もなくなりました。

「今は会員が高齢になり大きなことはしていません。ただ、学校の活動だけは応援したいと思います。やはり子供たちが鎌を持って下草刈りに行く姿を見ると、何か役に立てればと

思います。いつか、ササユリの保護活動をしてくれる後継者が育つてくれることを願っています。」

永井氏は、八十歳を越えた今でも生徒がけがをしないようにと、通り道を整備したり、急斜面に上り間伐を行ったりしている。

「山が荒れても、下草刈りをして管理をすると、ササユリは芽を出します。球根は生きています。花が咲けば、とても良い香りがします。それが、ササユリの魅力です。」

ササユリは三月に下草刈りを行うと五月に十日ほど花が咲く。「元気なうちは、保護活動を続けていきたいと思います。」

ササユリ保護活動を通したふる里を愛する人づくりをめざし、今日も永井氏の営みは続いている。



氏名 ながい きんじ
生年月日 昭和九年五月三日
住所 岡崎市宮石町



豊かな人間性や 社会性を育むために

竜海中学校長

加藤 勝巳

私たち教師は、児童生徒に確かな学力を定着させるとともに、豊かな人間性や社会性を育み、たくましく生きるための健康・体力を身につけさせるために、日々の教育活動に取り組んでいる。

豊かな人間性や社会性を育てるためには、道徳の授業や体験的な学習等を充実させることが大切であるが、それと同時に、学校の教育活動全体を通して、基礎的・基本的な生活習慣を身につけさせることも忘れてはならない。本来、基礎的・基本的な生活習慣の育成は、家庭の躰が大前提であるが、集団生活の中で身につけさせるべきことも多い。

私は機会があるたびに、生徒や職員に次のことを呼びかけている。それ



嫌いで言ってるわけじゃない

連尺小
都築 周平

最後の大会を二か月後に控えた五月。A子は目に涙をためて、私を黙って見つめていた。

連尺小女子ソフトボール部では、選手全員で回す部活日記を行っている。A子の部活日記には、「自分だって頑張っているのにうまくいかない」そんな思いがつつられていた。

新チームが発足した一年前、A子は、チームの中心となる選手であった。しかし、気持ちを表に出すことが苦手であった。私が話しかけても、言葉数が少なく、一言二言の返事ばかりであった。それでも、強い思いを誰よりも秘めている子であった。それは、日々の部活日記につづられる言葉から伝わってきた。だから私は、A子に、チームを引っ張り、自信をもってほしいと願いを込めて、大事なピッチャーを任せることに決めた。

A子は、ピッチャーとして順調に

技能を伸ばしていった。しかし、三月の初めての大会、大事な場面でフォアボールを出してしまう心の弱さが表面化した。試合後の部活日記で私は、「すぐに結果は出ないが、日々の積み重ねが夏に実る。辛抱強く取り組もう」と励ました。簡単に解決する問題ではなかった。日に日に彼女の表情は暗くなり、私を避けるようになっていった。そして、二か月たった五月にも、私の前にいるA子は、まだその表情を曇らせたままだった。

最後の大会間近となった六月のある日、A子は、守備練習に苦しんでいた。私の指導に涙ぐみ、私をにらみつけていた。

部活後すぐに、私はA子呼び、直接話をした。

「今日の練習きつかったか。」A子は、黙って目をそらした。「時折厳しい言い方をしたかもしれない。でも先生は、嫌いで言ってるわけじゃない。A子にうまくなってもらいたい。だから、言ってるんだ。一緒にがんばろう。」A子は、黙って涙を流していた。

その日の日記には、「先生に何度も早く足を動かせと言われますが、自分では動かしているつもりです。自分ばかりが叱られている気がしました。先生は私のことが嫌いなんだと思います」と記されていた。私は胸が痛くなった。しかし、「先生は、嫌いで言ってるわけじゃない」って声をかけてくれました。心が読ま



れたのかと思つてどきどきしました。でも、その言葉が嬉しかったです。そうつぶられていた。その日を境に彼女の表情は明るくなっていった。最後の大会。順調に勝ち進み、A子は、決勝の舞台に立っていた。初回の登板、A子の顔は、緊張で引きつっていた。そんな彼女に私は、「笑って」そうベンチから声をかけると、我に返つたように、ニコッとほほえみかけてくれた。「大丈夫」、そう確信した。

最後の舞台で、A子は、自分の力を出し切った。接戦の末、惜しくも試合に負けはしたが、A子の顔は、晴れやかだった。

試合後、「先生、これまでありがとう。ございました」と、A子は、目を潤ませ、私に手を差し出した。思いのあふれる握手だった。

は「明るいあいさつ」「さわやかな笑顔」「感謝の気持ち」「謙虚な姿勢」の四つである。どれもが人間関係を滑らかにし、お互いの理解を深め、心を癒し、信頼の心を育てるために大切なものである。そして、豊かな人間性や社会性を育てるためには必要不可欠な基礎的・基本的な生活の心得が必要である。

このことを呼びかけて三年目になる。集会での生徒の聞く姿勢、廊下ですれ違うときのあいさつや笑顔から、少しずつではあるが成果が見られるようになってきた。地域の方々からお褒めの言葉も届くようになってきた。これは、生徒たちの努力もさることながら、職員の前向きな取り組みの賜物でもあると思う。例えば「教師の方からあいさつをする」「笑顔で接する」「日直や給食などの当番の生徒に感謝の言葉をかける」「謙虚に人の話を聞くことの大切さを諭す」など、多くの職員が率先垂範して取り組んだおかげである。

豊かな人間性や社会性を育むためには、常に教師や保護者など、子供の周りにいる大人が、まずその手本を示すべきである。子供にとって、なりたい大人のモデル、成長のモデルとなるのは、最も身近にいる親や教師である。

歴史発見

滝山寺・滝山東照宮の 国指定重要文化財



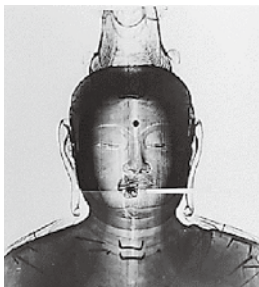
▲ ガラスケースなどなく、間近で見学できる「運慶」作の三尊像

二〇一七年九月、滝町の滝山寺宝物殿から一体の仏像が東京国立博物館『運慶展』へ運ばれた。運慶の仏像は三十一体が現存するのみである。奈良の東大寺にある金剛力士像に代表されるように、多くは近畿や関東にあるのだが、そのうちの三体が滝山寺宝物殿に安置されている。

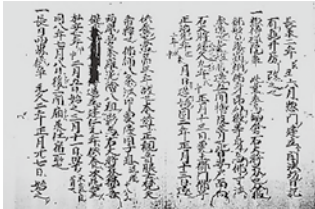
一二〇一年、源頼朝の三回忌が滝山寺で執り行われた。それには頼朝の従兄弟であり滝山寺僧侶の式部僧都寛伝の尽力があった。その際、追善供養のために運慶の手で三尊像が作られたのである。滝山寺縁起には中央の聖観世音菩薩立像は頼朝と同じ背丈であり、内部には鬚と歯が納められたと書かれている。一九八一年の調査でそれが証明され三尊像は国指定重要文化財となった。

鎌倉時代から約八百年もの時を越えて、この三尊像が散逸せず現存するのは奇跡に近い。滝山寺本堂や三門はもちろん、隣接する滝山東照宮も国指定重要文化財である。これらは身近なところであり、教科書で学習する時代や人物につながっていく。改めて調べてみると驚きや発見の連続である。当時の様子を色濃く物語る文化財は価値の高いものであり、子供たちの学習意欲を高めてくれる存在である。

滝山寺宝物殿 三尊像



▲ 聖観世音菩薩立像
内部X線写真で鬚と歯の存在が証明された



▲ 滝山寺縁起
鎌倉右大将「源頼朝」との関係が記される



▲ 三尊像「運慶」作

滝山寺縁起に「惣持禅院の事 此の堂は鎌倉右大将家の為に奉るなり 彼の御鬚と落歯を以て仏身に納め 彼の等身を以て仏の寸法と為す」との記述が残されている。

来られた方には「このお寺いいね」と思っていただけのように丁寧な御説明差し上げます。滝山寺や東照宮がここにある理由を話したり、実際に仏像を見ながらその由来や歴史を語ったりしますと、多くの方が「授業もこうだと面白いの」と本物に出会った喜びに満足されて帰られます。

大人も子供も「面白い」と思えば自分で調べ始めます。発見や調べが進み、納得できると、誰かに話したくなるものです。

教員を退職してしばらく経ちますが、今さらながら問題意識を持たせることの大切さを感じます。子供たちの意欲に応える資料を仕組めば、自然と子供は動くでしょう。四十人全員でなくても、一人でも多くの子が「歴史大好き」と言ってくれたらうれしいです。



滝山寺住職
山田 亮盛氏

滝山寺 本堂 三門



▲ 滝山寺本堂（本尊は薬師如来）
鎌倉時代に造営される。承久の乱後、三河守護の足利氏に守られ、室町時代には三代将軍「足利義満」の援助を得る。



▲ 三門（本堂から西へ約 800 m）
鎌倉時代に建立される。こけら葺の楼門。両側に仁王像を安置する。

滝山東照宮（祭神「徳川家康公」）



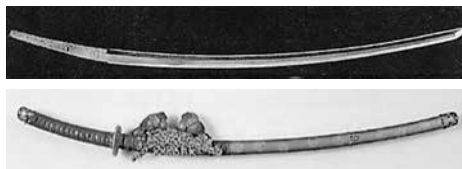
▲ 拝殿
江戸時代、三代将軍「徳川家光」により造営される。日光、久能山とともに三宮と称せられている。



▲ 拝殿内部
江戸時代、東照宮正遷宮の際に、江戸幕府の御用絵師であった「狩野探幽」作の三十六歌仙図扁額が奉納される。狩野探幽は他に、江戸城や二条城などの障壁画制作に携わっている。



▲ 太刀 銘 長光（ながみつ）
江戸時代、東照宮正遷宮の際に、三代将軍「徳川家光」により奉納された。「長光」は備前国長船派の鎌倉時代後期を代表する名工である。



▲ 太刀 銘 正恒（まさつね）
江戸時代、東照宮正遷宮の際に、将軍家光の世子「家綱」（後の四代将軍）により奉納された。「正恒」は鎌倉初期の備中国古青江派の刀工である。

滝山寺・滝山東照宮にある国指定重要文化財と指定年月日

明治34. 3.27	滝山寺山門
明治37. 2.18	滝山寺本堂
大正 3. 4.17	太刀 銘 正恒
大正13. 4.15	太刀 銘 長光
昭和28.11.14	滝山東照宮本殿 幣殿、拝殿、中門 鳥居、水屋
昭和56. 6. 9	聖観世音菩薩立像 梵天立像 帝釈天立像

お知らせ



● 教育最新情報

◆ 来年度の研究発表表校

来年度の市委嘱校の研究主題と公開する授業の教科・領域は、次の予定である。これからの研究、研修の参考にしたい。

○ 市委嘱研究発表

・六ツ美南部小学校

(国語科・算数科)

「対話でつなぐ授業 一考察」

・六名小学校(外国語活動)

「6つのワードで六名English」

— 英語に慣れ親しみ、よりよいコミュニケーションの

素地・基礎を育む子—

・城北中学校(道徳科)

「多様な価値観を認め合い、たくましく未来を生き抜く

」

力を育む道徳教育「道徳的価値から、よりよい生き方を語り合うための『特別の教科 道徳』」

◆ 第61回小中学校書き初め展

一月十九日(金)から二十一日(日)の三日間、岡崎市美術館で、小中学校書き初め展が開催された。市内の小中学校及び聾学校七十校から、各学級の代表作品二点ずつ、約二一〇〇点が展示された。

今年度も、鉛筆を正しく持つて文字を書く力を付けることを指導目標とした「硬筆作品の部」を実施した。

昨年度の第60回という節目の回を経て、今年度は新たな一歩を踏み出す意味もこめ、看板を新しく制作した。

三日間で、六千人余りの方が会場を訪れ、子供たちの作品を鑑賞した。家族連れで来館する方が多く、作品の前で語り合ったり、記念撮影をしたりする姿が、会場のあちらこちらで見られた。

展示された書き初め作品は、全て文集「おかざき」に掲載される。



● 表彰

◆ 第5回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール

○ 規定曲部門

文部科学大臣賞 生平小学校

二位 根石小学校

◆ 全国小学生バドミントン選手権大会

○ 女子シングルス四年生以下

優勝 六名小 山本優愛

◆ 全国小学生バドミントン選手権大会東海ブロック大会

○ 四年生以下男子ダブルス

三位(全国大会出場) 羽根小 海老原悠斗

竜谷小 西尾侑起

◆ 愛知県駅伝

○ 区間賞(男子)

第六区 竜海中 小林亮太

◆ 愛知県中学生バスケットボール新人大会

○ 男子の部

二位 葵中学校

◆ 東海選抜卓球大会愛知県予選

三位 矢作中学校

◆ 駅伝カーニバル

○ 中学校男子の部 南中学校

○ 中学校女子の部

優勝 矢作中学校

二位 新香山中学校

◆ 岡崎市民駅伝競走大会

○ 中学校男子の部

優勝 竜海中学校 A

二位 甲山中学校 A

三位 南中学校 A

四位 矢作中学校 A

五位 翔南中学校 A

六位 新香山中学校 A

○ 中学校女子の部

優勝 六ツ美北中学校 A

二位 岩津中学校 A

三位 矢作中学校 A

四位 新香山中学校 A

五位 矢作中学校 A

六位 甲山中学校 A

◆ 水質パトロール隊事業

佳作 秦梨小学校

東海中学校

矢作北中学校

◆ 東海・北陸地区中学校技術・家庭科作品展

入選 常磐中 青山千紘

◆ 全国小・中学校作文コンクール愛知県審査

○ 小学校低学年の部

優秀賞 奥殿小 白井杏奈

佳作 奥殿小 太田零月

○ 小学校高学年の部

優秀賞 城南小 戸市佳乃

佳作 六名小 岡田理希

○中学校の部

佳作 六ツ美中 稲前恵潤

◆全国中学生人権作文コンクール

愛知県大会

入選 常磐中 森田凌太

新香山中 上村春樹

◆子ども絵画コンクール

○小学校低学年の部

愛知県野外教育センター長賞

常磐東小 大江智暁

○小学校高学年の部

愛知県野外教育センター長賞

形埜小 酒井大樹

愛知県青年の家所長賞

北野小 鈴木孝己

◆県アンサンブルコンテスト

金賞 竜美丘小 金管八重奏

銀賞 竜美丘小 打楽器五重奏

フルート四重奏

クラリネット四重奏

サクソフォン四重奏

銅賞 大樹寺小 金管打八重奏

金管打七重奏

◆県アンサンブルコンテスト

西三河北地区大会

金賞(県大会へ)竜海中学校

六ツ美中学校

南中学校

美川中学校

新香山中学校

北中学校

◆全国中学生人権作文コンクール

岡崎地区大会

奨励賞 常磐中 森田凌太

常磐中 平山彩瑛

◆「算数・数学の自由研究」

作品コンクール

内田洋行賞

井田小 西田香穂

◆IPA「ひろげよう情報モ

ラルセキュリティコンクール」

2017

○標語部門

愛宕小 深井さち

◆「手を洗おう、きれいな手！」

ポスターコンクール(全国)

最優秀賞 本宿小 古田るり

◆小中学生作文コンクール

○作文の部

最優秀賞(市長賞)

恵田小 高坂南歩

甲山中 谷口琴音

市議会議長賞

井田小 前原桜輔
根石小 石坂花奈

東海中 萩原りんご

美川中 頭士愛理

竜美丘小 飯田真優

藤川小 鈴木峻太

井田小 長崎一樹

男川小 稲垣裕飛

北野小 加形暖乃

連尺小 兵藤夏恋彩

美川中 大原未羽

美川中 名節智絵

河合中 細英士朗

○詩の部

市教育委員会賞

広幡小 竹内琴音

美川中 服部杏香

◆全国児童才能開発コンテスト

○作文の部

財団奨励賞 北野小 尾崎琴都

佳作賞 北野小 近藤菜々美

●少年自然の家だより

たくましく「生きる」力を

子供たちの「楽しかった」

の声とともに、今年も大勢の

笑顔と笑い声に囲まれた少年

自然の家だった。今年度の

キャンプ活動を見てこん

なことが心に残っている。

「マッチで火をつけたことが

ない」「薪をなたで割ったこ

とがない」など、子供たちの

体験不足が目立った。それが

原因で、「今の子供は……」

と言われてしまうから子供た

ちは、可哀想である。

「マッチで火をつけること」

や「なたで薪を割ること」な

どが、今の時代の子供たちに

必要ではなくなったからこそ、

山の学習くらいしか体験でき

ないのである。だから、子供

たちは薪割に夢中になる。一束

全部細くしてしまうほどの勢

いである。細い薪が必要かど

うかは二の次である。マッチ

やライターで火をつけることも

やりたい者で取り合いになる。

昔も今も同じである。むしろ、

薪割りや火をつけることを怖

がってやらない子供が少なく

ないことが気にかかる。

昔の子供はできたことが、

今の子供はできなくなったこ

とは、体験不足が原因で数多

ともなって、世の中が便利に

なり、子供たちの「体験」が

増減することは、しかたがな

いことだとは思う。

キャンプファイヤーでの子

供たちのスタンプは、おもし

ろく楽しい。歌声も大きく乗

りがいい。「山のイエーイ」

だけでなく、場を盛り上げ、

エールマスターを助けること

も知っている。今の子供たち

ならではのセンスだと思える。

今の子供たちのセンスも生

かしつつ、山でしかやれない

活動を工夫し、たくましく「生

きる力」を持った子供たちを

育てていきたいものである。



▲ネイチャークラブでの活動

・カ
ツ
ト
六ツ美北中
岡
義
輝

防災訓練 (昭和48年)

写真提供：常磐東小学校

写真は地元の消防団が中心となって学区の防災訓練を行ったものである。粉末消火器が普及し始め、実際の消火器を使って指導している。

当時は、木造家屋が多く、ひとたび火災が起きると近隣を巻き込む大災害につながった。そのため消火のためのバケツリレーの訓練も各学校で行われていた。

現在では、地球温暖化が進み、台風による土砂災害や河川の氾濫も心配されている。それぞれの学校では避難所体験を計画して、体育館での寝泊まりを経験したり、非常食の炊き出しをしたりするなど、防災訓練の内容も多様になってきた。

これからの防災訓練では、地域の実態に合わせて、さらに防災の意識を高めることが大切である。



常磐中の校歌に「吉祥山の頂に」という歌詞がある。滝山寺のはじまりは、近くを流れる青木川の滝つぼで発見された薬師如来を安置するために建てた「吉祥寺」だそう。歴史や伝統は脈々と受け継がれ、目を向けさえすれば意外なほど身近なものであると実感する。

ど ホ ツ 如 月



節分豆まき (井田小)

ほんのり薄桃色の花が咲く。五年から十年の歳月をかけて咲くササユリの花は、とても迫力があり強い香りがする。

環境の変化に伴い、個体数が減少するササユリを守ろうと努力している人がいる。そんな人の思いを受け継ぎ、子供たちが下草刈りへと出かけていく。

積み重ね努力することの大切さを、教師は日々の部活日記で伝えてきた。緊張したが、ほほえみに変わった。教師の心からの言葉は、子供の笑顔を生む。子供を見つめ、寄り添う言葉がかけられる教師でありたい。

この本を



***君たちはどう生きるか** 吉野源三郎
マガジンハウス ￥1,300

心に残った一文
どんなときにも、自分に絶望したりしてはいけないですよ。

主人公コベル君は、友人たちに対する上級生のいじめを見てみぬふりをし、目の前で起きた理不尽な暴力に体が固まり飛び出せなかった自分の弱さに悩み、発熱し寝込んでしまう。枕元で語るこの母の言葉は、まさに特効薬であった。

本書は、戦前の軍国主義が進み、まもなく戦争の泥沼に入ろうとする中、自分の頭で考えて生きる主人公の姿が描かれている。世の中の豊かなつながりを感じ始めた主人公は、貧困やいじめ、差別に直面する。自分の過ちを認め、困難を克服していく主人公の姿を通して、私はどう生きるべきかを考えさせられた。

***やり抜く力** アンジェラ・ダックワース
ダイヤモンド社 ￥1,600

***コーチングスキル** 谷 益美
すばる舎 ￥1,500

***ラ・フォンテーヌ寓話** ラ・フォンテーヌ
洋洋社 ￥1,800

矢作北小 近藤 文彦